



アジア太平洋都市サミット ニュースレター No.41 2018年3月号

目次

- I 第12回アジア太平洋都市サミット特設サイトについて…………… 1
- II 国連ハビタット福岡本部だより（連載16）
「第9回 世界都市フォーラム - 持続可能な都市を目指して -」… 2

I 第12回アジア太平洋都市サミット特設サイトについて

2018年8月1日(水)～3日(金)に福岡市で開催される第12回アジア太平洋都市サミットの特設サイトがオープンしました。第12回サミットのお知らせ、プログラム、会議概要など、会議の最新情報をこれからホームページ上で随時公開していきます。

アジア太平洋都市サミットホームページ: <http://apcs.city.fukuoka.lg.jp>



お知らせ

2017.12.21



2017.9.25



2017.8.7



2017.6.26



II 国連ハビタット福岡本部だより (連載 16)

第9回 世界都市フォーラム — 持続可能な都市を目指して —



商業ビルの壁面を使った告知

国連ハビタットが2年に一度開催する「世界都市フォーラム」の第9回の会議(WUF9)が、2018年2月7日から13日までマレーシアの首都クアラルンプールで開催されました。アジアで開催されたのは、2008年の第4回南京開催以降10年ぶりのことです。

今回の会議テーマは、「Cities 2030, Cities for All: Implementation the New Urban Agenda」で、2016年11月エクアドルの首都キトで開催されたハビタットⅢ(会議詳細は2016年12月号参照)後初の世界フォーラムとして、ハビタットⅢで採択された「ニュー・アーバン・アジェンダ」が着実に実行されているか、持続可能な開発目標の達成に向けて各国・組織が多様な関係者と連携を深め、課題や良い取り組みを共有しながらより良い方向に進んでいるかを確認する場でした。

開会セレモニーにはマレーシアのナジブ首相が参加され、首相の開会宣言で7日間の会期がスタートしました。メイン会場での会議参加者数は約22,000人にのぼり、参加国籍数の165国・地域は過去最多です。これ以外に多くの地元市民が展示会場を訪れた他、街中の市民や観光客が多く集まる場所にはサテライト会場が設けられ、「持続可能な住まい」を体現したモデルハウスが建てられたり、会議テーマに関わる本を誰でも手に取って見ることができるような仕掛けが施されていたり、様々な団体による関連行事も連日開催されました。また、国際空港内、地下鉄の駅、メイン会場周辺などにはWUF9のバナーや看板が随所に掲げられ、市内を走るバスもWUF9のロゴマークでラッピングがされるなど、正に会期中はクアラルンプール市がWUF9一色に染まり、地元でも大いに注目されていました。



市内の公園に設けられた市民参加型の展示



自治体関係者会議で福岡市の取り組みを紹介する福岡市の高島市長

会期中には、各国代表者が集まる大臣級会議や自治体関係者が一堂に会する会議も開催され、自治体関係者会議では福岡市の高島市長も福岡市の持続可能なまちづくりの取り組みについて事例紹介されました。これら全体会合の他に560ほどのサイドイベントと呼ばれるテーマごとの分科会が次々と開催され、更に展示会場では展示ブースに設けた小さなスペースで独自にトークセッションを開催する団体も多く、参加者は興味のあるテーマを追って次から次へと分科会会場や展示会場を駆け巡っていました。



見学者で賑わう展示会場

この会議が実質的な就任披露となったモハメド・シャリフ新事務局長は、各国政府関係者とのトップ会談ばかりでなく、展示出展者への声掛けやクアラルンプール市で新たに始まったレンタサイクルの試乗、サテライト会場での市民との交流など、連日精力的に多様な人々との対話や持続可能な取り組みのピーアールを行いました。前ペナン島市の市長であり、市長になる前から長らく都市計画の立案や実践に携わってきた人らしく、現場や市民の目線を大切にされていること、分かりやすく目に見える形で考えを示そうとされていたことが印象的でした。福岡市長との面会時には高島市長から今年 8 月に福岡市で開催されるアジア太平洋都市サミットへの参加を呼びかけられ、各都市の市長同士が連携して都市課題解決を目指す取り組みに高い関心を示されました。

WUF9 会期中は、都市にかかわる様々な課題 — 急激な都市化に伴う自然環境や居住環境の悪化、自然災害からの復興、災害に強いまちづくり、気候変動に伴う危機への対応、土地所有権問題、都市計画の着実な実行、持続可能な社会に関する教育と人材の育成、行政運営への市民・民間セクターの参加、高齢者や障がい者が安心して暮らせるまちづくり、格差と貧困、避難民の再定住化、持続可能な社会を実現する新たな環境技術の開発、課題解決に取り組むプラットフォームの形成など、ここに列挙できないほど実に多様なテーマについての議論や対話が行われました。

最終日のクロージングセレモニーではクアラルンプール宣言が発表され、持続可能な開発目標の達成を更に加速して推進するため、「ニュー・アーバン・アジェンダ」を各都市の現状に合った形に対応させながら規模を拡大して展開することの必要性を確認しました。そして、これから生まれてくる子どもたちも含めて、この地球上にいるすべての人々が、差別や偏見を受けず、適切な環境で安心して健康的な生活が送れるよう、また災害に強く持続可能な社会で生きてゆけるよう、あらゆる手段と資源を動員してその実現に努めることを参加者全員に呼びかけました。

ここで行われた情報共有や意見交換をどのような形で持続可能な都市づくりにつなげることができるのか、“What’s next?” これが私たちに突き付けられた大きな宿題です。

次回 2020 年の第 10 回世界都市フォーラムは、アラブ首長国連邦の首都アブダビにて開催されます。

クアラルンプール宣言詳細はこちらをご覧ください。

<http://wuf9.org/kuala-lumpur-declaration/>



サイドイベント会場だけでなく展示会場や会場廊下まで使って、様々な対話が行われました



クロージングセレモニーでクアラルンプール宣言を発表するモハメド・シャリフ国連ハビタット事務局長



今後のアジア太平洋都市サミットの会議予定

開催時期	会議名	開催都市
平成 30 年 8 月 1 日～2 日 ※3 日は視察	第 12 回アジア太平洋都市サミット	福岡市(日本)

アジア太平洋都市サミット : Asian-Pacific City Summit は、アジア太平洋地域の都市問題の解決に向け、市長会議や実務者による会議等を通じて、都市の連携やネットワークの構築を図っています。

アジア太平洋都市サミット会員都市 13 カ国 30 都市

オークランド市(ニュージーランド)	鹿児島市(日本国)
バンコク都(タイ王国)	北九州市(日本国)
ブリスベン市(オーストラリア連邦)	クアラルンプール市(マレーシア)
釜山広域市(大韓民国)	熊本市(日本国)
長沙市(中華人民共和国)	マニラ市(フィリピン共和国)
大連市(中華人民共和国)	宮崎市(日本国)
福岡市(日本国)	長崎市(日本国)
広州市(中華人民共和国)	那覇市(日本国)
光陽市(大韓民国)	大分市(日本国)
ホーチミン市(ベトナム社会主義共和国)	浦項市(大韓民国)
香港特別行政区(中華人民共和国)	佐賀市(日本国)
ホノルル市(アメリカ合衆国)	上海市(中華人民共和国)
イポー市(マレーシア)	シンガポール(シンガポール共和国)
ジャカルタ特別市(インドネシア共和国)	ウルムチ市(中華人民共和国)
済州特別自治道(大韓民国)	ウラジオストク市(ロシア連邦)

【編集・発行】 2018 年 3 月 23 日 アジア太平洋都市サミット事務局 (福岡市総務企画局国際部)

〒810-8620 福岡市中央区天神 1-8-1 TEL: 092-711-4028 FAX:092-733-5597

E-mail: apcs@city.fukuoka.lg.jp Website: <http://apcs.city.fukuoka.lg.jp/>